



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

# しらこぼと

## 2013.8

No.352

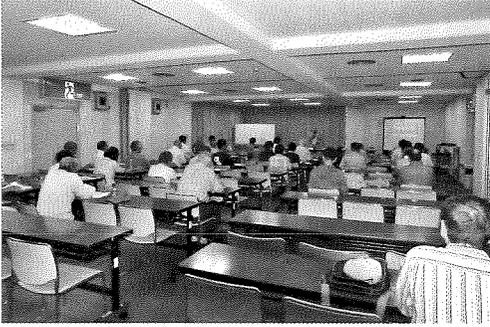
日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



# 平成 25 年度(第 29 回)総会

平成 25 年 6 月 30 日(日)午後 1 時 30 分から、さいたま市民会館うらわで、総会を開催しました。



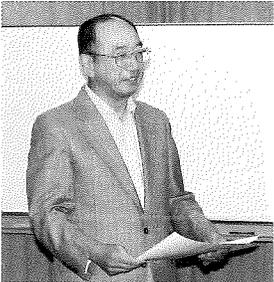
## ●記念講演

小林みどりの司会で定刻に開始。記念講演は公益財団法人日本野鳥の会常勤常務理事兼事務局長の佐久間仁氏(写真右)の「日本野鳥の会 知っているようで意外と知られていない実情」。



本部の平成 24 年度事業と決算について、オリジナル長靴が販売活動の大きな柱になっていること、会費収入が 14%に減少していることなどが明かされました。

## ●表彰式など

藤掛保司代表の開会の挨拶で総会が始まり、平成 24 年県内鳥見ランキングの探鳥会参加回数と観察鳥種数の両部門で 1 位となった内田克二氏(写真左)に表彰状と副賞が渡されました。

議長に入山博、書記に相原修一、議事録署

名人に石川敏男・山口芳邦が選出されて、議事に入りました。

## ●平成 24 年度事業報告

海老原美夫事務局長が、映像をまじえて平成 24 年度事業について報告しました。

### 【普及活動関係】

普及部(部長:橋口長和)が担当した探鳥会は、本誌前月号 12 ページ「連絡帳」欄記載の通り。その他、リーダー研修会、年末講演会を開催。その他、公民館関係など 11 件の普及活動。

### 【保護活動関係】

県のシラコバト調査に協力、朝日新聞のオオヨシキリ営巣写真掲載に抗議文送付、2020 年オリンピック葛西臨海公園カヌー競技場建設計画に変更要望書団体署名、飼養許可申請手続き徹底化要望書を県に提出、など。

### 【調査研究関係】

研究部(部長:小荷田行男)は、カモ・ハクチョウ類、シギ・チドリ類調査などを継続。

記録委員会(委員長:小林みどり)は、8 件の事例について検討し、結果を『しらこぼと』誌上で発表。

### 【編集活動関係】

編集部(部長:山部直喜)は、会誌『しらこぼと』を年 12 回、合計 21,600 部発行。

### 【総務・事務局関係】

会員数減少。減少率は 3.1%。日本野鳥の会連携団体全国大会(都内)、関東ブロック協議会(茨城担当、大子町)などに出席。

### 【事業活動関係】

会の財政安定に貢献。

事業報告の詳しい内容は、当会ホームページに全文掲載していますので、ご覧ください。

## ●平成 24 年度収支決算

平成 24 年度収支決算は右ページ表の通りです。長野誠治・楠見邦博両監事が監査結果を報告しました。

## ●平成 25 年度事業計画・収支予算

平成 25 年度事業計画案と予算案は、通常の事業を継続することを基本としたものであることが説明され、ここまでの議事はその都度拍手で承認されました。

## ●平成 25 年度役員

前年度役員のうち内田孝男氏(古河市)が、渡良瀬遊水池保護活動により力をそそぎたいとして退任、そのほかの 41 名を再任、茂木幸蔵(写真右)を新任として選出する案が承認されました。



総会議事を一旦中止して平成 25 年度役員による最初の役員会を同じ場所で開催、代表・副代表・監事を選出しました。

### 平成 25 年度の役員は次の 42 名です。

〔代表〕 藤掛保司(川越市)

〔副代表〕 海老原美夫(さいたま市)

〔幹事〕 相原修一(鴻巣市) 青木正俊(さいたま市) 浅見徹(さいたま市) 新井巖(深谷市) 石井智(鴻巣市) 石川敏男(春日部市) 石光章(所沢市) 伊藤芳晴(川口市) 井上幹男(長瀨町) 入山博(春日部市) 榎本秀和(鴻巣市) 大坂幸男(上尾市) 倉林宗太郎(さいたま市) 小池一男(寄居町) 小荷田行男(さいたま市) 小林みどり(さいたま市) 佐久間博文(川越市) 佐野和宏(越谷市) 杉本秀樹(習志野市) 須崎聡(川口市) 田邊八州雄(越谷市) 玉井正晴(蓮田市) 千島康幸(小川町) 手塚正義(川口市) 内藤義雄(鴻巣市) 中里裕一(加須市) 長嶋宏之(蓮田市) 中島康夫(蓮田市) 中村豊己(東松山市) 橋口長和(春日部市) 長谷部謙二(川越市) 菱沼一充(白岡市) 茂木幸蔵(行田市) 持丸順彰(志木市) 森本國夫(さいたま市) 山口芳邦(新座市) 山部直喜(三郷市) 吉原俊雄(北本市)

〔監事〕 楠見邦博(さいたま市) 長野誠治(さいたま市)

## 平成24年度決算・25年度予算

### 収入の部

	項 目	24年度決算	25年度予算
一般会計	期首繰越金	2,166,225	1,815,780
	会費	2,908,150	3,000,000
	寄付金	2,277	10,000
	探鳥会参加費	287,356	250,000
	雑収入	16,845	10,000
	仮払金清算	67,959	0
	補助金	200,000	200,000
	一般会計合計	5,648,812	5,285,780
事業部会計	期首繰越金	2,420,843	2,557,322
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	事業部売上金	552,263	700,000
	事業部雑収入	4,327	10,000
	事業部会計合計	7,977,433	8,267,322
総合計		13,626,245	13,553,102

### 支出の部

	項 目	24年度決算	25年度予算
一般会計	什器備品費	13,220	50,000
	消耗品費	8,818	20,000
	会報印刷費	1,202,040	1,300,000
	会報発送料	805,137	900,000
	印刷用紙代	112,812	150,000
	通信費	108,271	120,000
	雑費	150,283	150,000
	家賃	984,000	984,000
	水道光熱費	54,941	60,000
	総務部費用	157,560	170,000
	普及部費用	194,861	200,000
	編集部費用	23,177	30,000
	研究部費用	5,950	10,000
	予備費	0	300,000
	仮払金	11,962	0
	期末繰越金	1,815,780	841,780
	一般会計合計	5,648,812	5,285,780
事業部会計	事業部仕入れ金	461,431	600,000
	雑費	1,680	5,000
	運営準備積立金	5,000,000	5,000,000
	期末繰越金	2,514,322	2,662,322
	事業部会計合計	7,977,433	8,267,322
総合計		13,626,245	13,553,102

## トカラ列島平島に鳥を訪ねて 内田克二(さいたま市)

平島(たいらじま)は鹿児島から南へ257 km、船で9時間半のトカラ列島の中央部に位置し、トカラに平家の落人が最初に流れ着いた地とも伝えられています。島の周囲は7.2 km、住民は約70人、小中学生8人という小さな島です。

4月26日午後羽田を出發。翌27日、午前7時半に平島南之浜港に到着。船をおりると「超珍鳥が出ている(この時点では鳥名が明確でなかった)」との情報。宿に荷物を置いて直ぐに初日の鳥見がスタートしました。

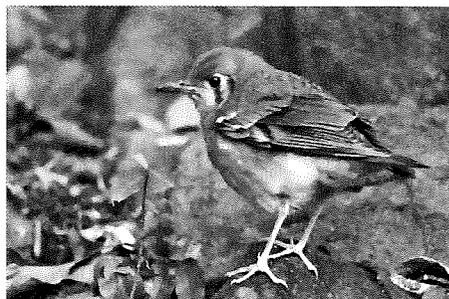
ポイントは神社、寺、グラウンド、水源地、千年ガジュマルの老木付近、診療所裏、港。しかし宿の近くでもオオルリ、キビタキ、アカヒゲが飛び回り、まるで鳥かごの中に自分が入っているようです。あちらこちらでズアカアオバトの尺八の練習のような声が聞こえ、近くの畑のキャベツの上にシマノジコが姿を見せてくれてスタートから驚きの連続です。

神社の庭では、シロハラホオジロ、キマユホオジロ、アトリ、コホオアカ、オオルリ、キビタキ、シロハラ等々が総出で出迎え。

午後から学校裏のグラウンドへ。アマサギ、コホオアカ、シマアカモズ、カラアカハラ、アマミヒヨドリ、コルリ、キマユムシクイ、オオルリ、サンショウクイと時間の経つのも忘れるほどに鳥が出現します。

いよいよ超珍鳥を求めて千年ガジュマルの老木の森へ移動。午後3時から待つこと2時間半。その間はアカヒゲがうるさいほどに相手をしてくれました。そしてついに岩の上に少しだけオレンジ色の頭が見え始め、ついに姿を現しました。「日本初認」の“オレンジジツグミ”です(右上写真:加藤岸男氏撮影)。6~7mくらいまで近づいてくれ、また、茂みの中に帰っていきました。その間2~3分。どうやらその後はどこかに渡って行ったようです。素晴らしい出会いでした。

28~30日。毎朝5時半から2時間の探鳥を行い、朝食後は9時から12時まで。昼食後は2時から6時までひたすら鳥を見て回りました。ノジコ、ビンズイ、シベリアアオジ、マ



ヒワ、クロツグミ、コムクドリ、キマユムシクイ、キビタキ、セイタカシギ、ムラサキシギ、シマアカモズ、ハヤブサ、チゴハヤブサ、チョウセンメジロ、リュウキュウサンコウチヨウ、シロハラホオジロ、マミチャジナイ、ムネアカタヒバリ等々。とにかく鳥数が多すぎるのです。島でのバーダーは私達を含め15人程しかいないので、私達は鳥の世界に入り込んだ迷い人という感じでした。

そして29日の午後、宿近くの畑でトラツグミを見つけ、3人の仲間が一齐に写真を撮り、拡大してみるとなんと“オオトラツグミ”。夜になって野鳥写真家のM氏(オレンジジツグミの情報で飛島から来島)も加わりオオトラツグミの談義沸騰。この鳥は奄美大島と加計呂麻島のみ分布する固有亜種。この鳥が平島で発見されると学術的見解が変わってしまうということで結論は持ち帰りとなりました。しかし鮮明な写真が多くあります。やがては真実が明らかになることと思います。

5月1日、いよいよ最終日。午前10時の乗船予定まで自由行動。私は5時半からスタートし、診療所裏の畑へ。すると黄色味の強い鳥が枯れ木の枝に1羽。なんとシマアオジです。すぐに仲間に連絡。全員でゆっくり観察することができました。

島に滞在したのは4泊5日で計83種の野鳥を観察することができました。

滞在中、思いがけない鳥との出会い。気持ち良く挨拶をする子供達。人情味あふれる島の人達。港の近くで時々出会ったトカラヤギと牛の群れ。オーシャンブルーに輝く東之浜港。青いナンヨウブダイとアオウミガメ。全てが感動のトカラ列島の鳥見旅でした。

# 北本自然観察公園の「変なキジ」続編

野鳥記録委員会 長嶋宏之(蓮田市)

本誌5月号に『北本自然観察公園の「変なキジ」の考察』という表題で、野鳥記録委員会で検討した結果を発表しました。今回はその続編です。

前稿にも記載した通り、キジの雄には距(けづめ)があります(写真1参照)。キジ雌には距がありません。羽衣の色で雌雄の識別がで



写真1 キジ雄のけづめ  
(海老原美夫)

きない場合、この距の有無が雌雄の識別ポイントの一つとなります。5月号で掲載した写真は、この距の有無を判断するに、今一明確さに欠けました。

北本の「変なキジ」は雄なのか、雌なのか? 5月号で「誰もが納得できる証拠写真」を提供してくれるよう会員の皆様にお願いしました。この呼びかけに、岩槻区にお住いの本会会員菊川和夫さんが、木の枝に止まっている後ろ姿の写真を送ってくだ

さいました(写真2参照)。2010年12月10日に撮影したとのこと。羽衣の様子などは、2013年2月3日に撮影された「変なキジ」と同じ、同一個体と思われます。左足には確かに距がありません。



写真2 北本の変なキジ  
2010年12月10日  
菊川和夫(岩槻区)

この写真2は北本の「変なキジ」は間違いなく雌であることを示しています。

これで学識ある友人Bの「(変なキジは)コウライキジの雌かキジの雌かは判断つきにくい、キジまたはコウライキジの雌の雄化で間違いない」という言葉を立証できたと考えます。

## リーダー研修会報告

青木正俊(さいたま市)

私「今度の6月、リーダーたちの研修会だからさ。行くね」

山の神「本当はただの懇親会じゃないの?」

私「ち、違うよ。何を言ってるんだ!」

山「目的地が四万温泉? ふ〜ん」

1日目、伊香保森林公園シダの池で定点観察。様々な鳥たちが水浴びにやってくる。個人的にはコルリ。5年ぶりのご対面でした。そして四万温泉近くのダム湖の回りを探鳥。猛禽が上空を何度も横切る。

旅館(訂正)研修センターに着くと、早速温泉(私は計4回入浴)。その後、本日のメインイベント飲み会(訂正)研修発表会。夜遅くまで盛り上がりました。



2日目は早朝から近所を散策。オオルリは姿も声もばっちり! なんとアカシヨウビンまで(声のみですが)。

2日間とも好天。皆さん、蝶や植物も実に詳しい。私も昆虫も勉強しようかな〜と、今、昼休みに会社の近くの八重洲ブックセンターで昆虫図鑑を探しています。

(探鳥中にメール:山「退屈だな〜。休日になんで1人なのかな〜」。返信:「……」)



## 野鳥情報

**蓮田市川島** ◇4月30日、ムナグロ約30羽(本多己秀)。

**蓮田市西城沼公園周辺** ◇5月6日、ヒヨドリ10羽の群れが北に向かって渡っていった。5月13日、ウグイスが3年ぶりに良い声で鳴いた。5月20日、民家の戸袋に営巣したムクドリが2羽で2～3分おきに餌を運んでいた。餌を捕りに行く方向は2羽とも同じで、約300m離れた野菜畑だった。6月3日、コアジサシ2羽が西沼の上空を旋回。何度もダイビングを試みるが、失敗。シジュウカラが巣立ちしたようだ。ニィーニィー声で鳴いている。ここでは珍しくホオジロが轉った。ムクドリ30羽士の群れがサクラランボに群がっていた。その他、コジュケイ、カワセミ、コゲラ等。6月10日、エナガの巣立ち雛4羽が肩を寄せ合って電線に並んでいた。ムクドリの成鳥と巣立ち雛合わせて50羽士が桜の樹の間を飛び回っていた。コアジサシ2羽が西沼でそれぞれ5～6回ダイビングを試みたが、いずれも失敗。デッキの下でカワセミが営巣したようだ。頻繁に出入りする。東沼のアシ原でオオヨシキリが轉っている。ここでは珍しい。その他、セグロセキレイ、コジュケイ、コゲラ等(長嶋宏之)。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇5月6日、ダイサギ、カルガモ、オオヨシキリ、ヒバ



オオヨシキリ(阿部義裕)

リ(陶山和良)。

**さいたま市桜区錦ヶ原ゴルフ場** ◇5月6日、ムナグロ1羽、ツグミ、ホオジロ、キジ、ウグイス(陶山和良)。

**さいたま市見沼区加田屋** ◇5月14日、コチドリ1羽。6月3日、アオサギ1羽、オオヨシキリ1羽。6月11日、キジ♂1羽、コチドリ1羽。3羽のオオヨシキリ、縄張り争い。みんな、がんばれ!(小林みどり)。

**さいたま市岩槻区長宮** ◇5月11日、目先に婚姻色の出たダイサギ2羽、コチドリ5羽+、タシギ1羽。コアジサシ4～7羽、飛び回る。中には魚をくわえて飛ぶものも。着地している個体は、まだいなかった。オオヨシキリとセッカ、さえずる。5月18日、アマサギ夏羽2羽、コチドリ抱卵中と思われる6～7羽、ヒナ1羽。コアジサシ抱卵中と思われる15羽士、その他5羽+。5月23日、キジ♂1羽、コチドリのヒナ6羽、タマシギ♀1羽、田んぼの隅で、のんびり休息。その後ろで♂1羽、時々首を延ばして周囲を見回し、警戒に余念がない様子。いい夫婦だなあ…。コアジサシ、全体で50羽士。6月2日、コアジサシが激減。抱卵中4羽、飛び回っている個体を含めて10羽に満たない。減った原因は不明(小林みどり)。

**春日部市増戸** ◇5月11日、国道16号線沿いの水田にムナグロ25羽(小林みどり)。

**さいたま市見沼区猿花キャンプ場** ◇5月13日、キビタキ♂1羽、さえずりの合間に何かをついばむ。14日にもキビタキのさえずりが聞かれた(小林みどり)。

**さいたま市緑区見沼自然公園** ◇5月14日、オオバン1羽、3年連続越夏か? カワセミ、声はすれども…。6月3日、シジュウカラの親子連れ、成鳥1羽、幼鳥3羽。幼鳥たちは賑やかに鳴き合い、翼をふるわせておねだりするが、自分で何かつくこともあった。6月11日、エナガ、幼鳥を含む7～8羽の群れ。シジュウカラの親子連れとメジロ、もう混群になり、ヤマグワの実を盛んに食べる(小林みどり)。

**さいたま市見沼区東新井** ◇5月14日、日大

法学部付近で、ツミの声（小林みどり）。

**さいたま市北区芝川（県道2号線～鷲山橋）**

◇5月17日、ムクドリ、巢へ餌を運ぶ姿が  
あちこちで見られる。5月22日、カワセミ  
1羽、鳴きながら上流へ飛ぶ。畑で2羽の  
ヒバリがバトル。ライバルを追い払った勝  
者、地上でさえずる。6月10日、カワウ1  
羽、下流へ飛んで行く。第七調節池周辺で  
は50羽近いムクドリの群れが、実をつけた  
サクラやヤマグワに集まっている（小林み  
どり）。

**蓮田市黒浜運動公園周辺** ◇5月20日、カッ  
コウの声を聞いた（中野田多津子）。

**鴻巣市袋** ◇5月20日午前7時15分、消防学  
校前でシラコバトの声。5月21日午前7時  
30分、消防学校前と隣接する防災センター  
前を鳴きながら飛び回り、電柱や建物にと  
まる2羽を確認（逸見 嶮）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇5月22日、  
ジュウイチの声（松原卓雄）。◇5月27日  
午前8時40分頃、村国池の林の奥の方から  
サンコウチョウの囀り。声が移動しながら、  
次第にこちらに近づいてくる。林の中に入り、  
じっとしているとますます近づき、15  
m程離れた木の枝に飛来。何故かこの日は、  
双眼鏡も持たず、カメラもマクロレンズの  
み。せっかいい所に出てくれたのに、肉  
眼でしか見られなかった。残念!! 後で、  
写真を大きく伸ばしてみたら♀でした。こ  
こでサンコウチョウは初めて（藤原寛治）。

**蓮田市馬込** ◇5月24日午前3時、フクロウ  
の声を聞く。前日の23日にも声を聞く（本  
多己秀）。

**蓮田市黒浜** ◇5月25日、カーテンを30cm位  
開けておいた自宅のガラス戸に、コゲラの  
みが激突して落ちた。ペットボトルで湯た  
んぼを作って、段ボールの箱に3時間入れ  
て、暗くして静かにしておいたら、元気な  
なって、飛んで行った（長嶋宏之）。

**本庄市坂東大橋** ◇5月26日、中州にコアジ  
サシ50羽+。集団繁殖を期待。シロチドリ  
1羽（小林みどり）。

**春日部市牛島** ◇5月28日午後1時15分頃、  
国の天然記念物「牛島の藤」で有名な藤花

園からカッコウの音が聞こえてきた（石川  
敏男）。

**坂戸市多和目** ◇5月30日午前10時30分～午  
後1時、高麗川沿いを歩く。城西大グラ  
ンド前の高麗川に、カイツブリ幼鳥3羽を  
連れた夏羽成鳥1羽。城山橋1号堰上流左  
岸、城山の崖下水際でガビチョウ2羽が水  
浴び。さらに上流右岸河川敷でコチドリ2  
羽。少し歩いては立ち止まり、羽を振るわ  
せながら左右交互に身体を傾け、砂利の地  
面に着けては少し走り、同じ行動を繰り返  
していた。擬傷行動か？ 何度も場所を変  
えながら、卵を抱いている様な仕草で座り  
こんだりしていた。本当の巣を守る為の「騙  
しのテクニック」!?!（増尾 隆）。

**蓮田市JR蓮田駅付近** ◇6月5日、ツミの  
親子。2～3年前までは馬込地区で子育て  
をしていたが、カラスの群れにやられた。  
今年は人の多い駅の傍で無事雛をかえす。  
雛の音がかわいい（本多己秀・久文字）。

**蓮田市馬込根ヶ谷戸公園** ◇6月7日午前5  
時、エナガ10羽+、公園の木に次から次へ  
と飛んできた（本多己秀）。

**さいたま市見沼区春野深作遊水池** ◇6月10  
日午後2時頃、カッコウ1羽、遠くでカッ  
コウの音が聞こえ、だんだん近づいてきて  
いるなど思っていると、急に目の前を飛び、  
近くの高い木にとまった。久し振りに、ゆ  
っくり観察しようとすると、周りに多くの  
ムクドリが集まってきて囲まれてしまい、  
2声鳴いて、飛び去った（菊川和男）。

**蓮田市黒浜** ◇6月15日午後3時30分頃、ト  
ラスト11号地の駐車場でコチドリが子育て  
をしていて、ヒナが4羽育っていた。コチ  
ドリの為に駐車場の一部を使用禁止とし  
てくれていたお陰で無事に子育てが終わりそ  
う。ほっとした（菊川和男）。

**表紙の写真**

**スズメ目ヒタキ科ノビタキ属ノビタキ幼鳥**

8月、日光戦場ヶ原で木道近くのホザキシ  
モツケの花にとまってくれました。花がたわ  
むほどの体重に成長していました。

**榮 武男（春日部市）**



## 行事案内



スズメ幼鳥

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

**参加費**：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

**持ち物**：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

**解散時刻**：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：8月4日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。  
交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス 8:36 発で「自然観察公園前」下車。

担当：吉原(俊)、相原(修)、相原(友)、浅見、大坂、岡安、柴田、立岩、飛田、内藤、永野、長谷川、村上、山野、吉原(早)

見どころ：どこの探鳥会も夏枯れで、鳥たちを探すのにリーダーは一苦労。でも、ここ石戸宿は野鳥以外の見どころもいっぱいです。虫好き、野草好きの皆さん！ 暑さに負けず、公園の緑道散策を楽しみましょう。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：8月11日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道大麻生駅前。  
交通：秩父鉄道熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：榎本(秀)、新井(巖)、鶴飼、倉崎、栗原、千鳥、飛田、中川、村上、茂木、森本  
見どころ：猛暑の続く毎日ですが、朝のひと時、野鳥の暮らしにも目を向けてみませんか。無理をせず、緑陰の小道を軽く歩く予定です。帽子や飲料水の携行など、熱中症予防対策をお忘れなく。解散も早目になります。

ご注意：今月も早い集合の夏時間です。

### 千葉県習志野市・谷津干潟探鳥会

期日：8月17日(土)

集合：午前9時30分、JR京葉線南船橋駅前。  
交通：JR武蔵野線(京葉線海浜幕張行)武蔵浦和8:27→南浦和8:31→南船橋9:21着。  
担当：杉本、伊藤(芳)、手塚、野村(修)、菱沼(一)、和田

見どころ：繁殖地から帰って来るシギ・チドリを観察します。珍鳥が出やすい時季です。潮回りもよさそうです。暑さと紫外線対策をお忘れなく。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：8月17日(土) 午後3時～4時ころ  
会場：会事務局 108 号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：8月18日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：浅見、青木、赤堀、宇野澤、楠見、倉林、小菅、小林(み)、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林、渡辺

見所：身近な野鳥を観察します。夏真っ盛りの野鳥たちの生態と行動をしっかりと目に焼き付けて、秋の涼風が吹いてくるのを想像しながら見沼代用水西縁を中心に軽めの散策を楽しみましょう。

## 千葉県・ふなばし三番瀬海浜公園探鳥会

期日：8月25日(日)

集合：午前9時10分、JR総武線船橋駅改札口付近。集合後京成バス9:20発船橋海浜公園行きに乗車し、終点下車。

交通：JR武蔵野線南浦和8:14→西船橋にて総武線乗換え。

担当：佐久間、杉本、高橋(優)、玉井、菱沼(一)、和田

見どころ：まだまだ暑さは続きますがシギ、チドリなどの渡りが始まっています。震災で沈下した東西の防波堤も補修され、より近くまで行って見られるようになりました。埼玉ではあまり見られないシギ、チドリもいますので参加してみたいかですか。

## リーダー研修会(要予約)

期日：9月1日(日)午前9時30分～午後5時(受付開始：午前9時)。

会場：北本市・埼玉県自然学習センター

交通：JR高崎線北本駅西口から、北里メディカルセンター病院行きバス8:36発で「自然観察公園前」下車。

申し込み：初めてリーダー研修会に参加される方は往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、推薦者名を明記して橋口長和

へ。8月25日まで。役員・リーダーの方も電話またはメールにて、必ず事前に参加申し込みをお願いします。

初めての方参加資格：探鳥会や支部活動にリーダーとして協力できる埼玉会員で、役員・リーダー1名以上から推薦があった方。

その他：①筆記用具と簡単な観察用具を持参してください。②昼食(弁当)付きです。

## 長野県・白樺峠探鳥会(要予約)

期日：9月22日(日)～23日(月・祝)

集合：22日午前8時45分、JR長野新幹線上田駅温泉口(南口)改札付近。

交通：長野新幹線「あさま503号」(大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:50→上田8:32着)、または「あさま505号」(大宮7:48→熊谷通

過→上田8:37着)。集合後現地まで往復とも貸切りバスを利用。

解散：JR長野駅にて23日午後6時30分頃の前定。

費用：25,000円(一泊3食・懇親会費・宿泊料、現地バス代、保険料など)。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：20名(埼玉会員優先、応募多数の場合は先着順。最少催行人数16名)。

申し込み：往復はがきに、住所、氏名、年齢、性別、電話番号、日本野鳥の会会員番号、喫煙の有無を明記、入山簿

8月1日消印

以降から有効受付とします。

担当：入山、玉井、藤澤、星

見どころ：近年の白樺峠でたくさん渡った時期に合わせて、2日間たっぷり見る予定です。目の前で、100羽位のタカ柱が見られるかな？夜は、宿自慢の“きのこ料理”で秋の味覚を楽しみましょう。

宿泊：男女別の相部屋です。個室の用意はできません。雨天の場合は、白樺峠の近くの探鳥地または観光地に行く予定です。参加者には後日、詳しい案内をお送りします。  
\*\*\*\*\*  
《蛇足的『見どころ』案内》

8月。正直言って、鳥は少ないです。しかし、こんな時季でも高原に避暑に行くでもなく、海辺の parasol の陰で潮風に身を任せるでもなく、里でガンバっている野鳥がいます。その代表が、ハシボソガラスとハシブトガラス。炎天下、全身黒づくめで暑くないの？熱中症にならないの？翼があるのだから、涼しい地方に移動すればよいのに・・・などなど、彼等(彼女等)の行動を覗き見するのも一興では。ちなみに、「カラスは、気温が30℃を超えると口をあけて体温を下げる」という話を聞いたことがあります。ホントかな？ボソとブト、違いは？ヒヨドリやムクドリなどではどうなのかな？ウーム、真夏の探鳥会が待ち遠しくなってきたぞ。(本欄担当浅見) ※各行事の担当者名は、先頭がメインリーダー、続いて50音順に記載しています。



## 行事報告

2月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会  
ボランティア：9名

相原修一、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

2月17日(日) 本庄市 坂東大橋  
参加：31名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ オナガガモ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ コチョウゲンボウ チョウゲンボウ イソシギ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) 北風が冷たい。土手をしばらく進むとコチョウゲンボウが小鳥を捕食したシーンに出くわした。ホオジロ、ヒバリは目立つが小鳥があまり姿を見せない。ベニマシコも声だけ。河原に着くと数羽のカワアイサが見られ、まずは一安心。ひとしきりカモ類を観察しての帰り道ではミサゴが出現。向かい風であり進めず、ゆっくりと我々を追い越していった。道端に数羽のオオジュリン、上流遠くには6羽のコハクチョウと、ほぼ期待どおりの探鳥会になった。(新井 巖)

2月17日(日) さいたま市 三室地区  
参加：84名 天気：晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コガモ オオタカ オオバン セグロカモメ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外：ドバト) 「天気晴

朗なれども風強し」という1日。一般の参加者が多く、特に親子で参加された方が目立った。スタートして早々、芝川横の用水路にカワセミ♀が現れ、全員でその美しい姿を堪能した。(須崎 聡)

2月17日(日) 志木市 柳瀬川  
参加：33名 天気：晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ ハヤブサ イカルチドリ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) (番外：ドバト) 朝には風も弱まり比較的暖かく、野鳥の種類は多いほうであった。最近はいカルチドリの数も減り、タゲリも姿を見せなくなって寂しかったが、久しぶりにタシギ2羽が比較的近距离で全員ゆっくり観察できた。年度内に高橋の耐震補強工事も終わる予定なので来シーズンは静かな柳瀬川探鳥会を期待したい。(持丸順彰)

2月24日(日) 行田市 利根大堰  
参加：21名 天気：曇

カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ オオバン シロチドリ ハマシギ イソシギ セグロカモメ キジバト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ ベニマシコ スズメ ムクドリ (36種) (番外：ドバト) 強烈な北風が吹き、立っているだけでも大変な状態でスタート。元塚公園のグラウンドでは、セキレイ3種が揃い踏み。土手に上がってカモ類を見るが強風には勝てない。ざーっと水面を見て下に移動。中州には、セキレイの仲間達が50羽位いた。予定より1時間早めて終了。寒い中、お疲れさまでした。(入山 博)

2月24日(日) 鳩山町 物見山  
参加：60名 天気：晴

トビ キジバト コゲラ ハクセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 強風の中を出発。市民の森の松林、雑木林の中は鳥がいない。かろうじてシジュウカラ、そしてルリビタキ♀をじっくり見ることができた。谷津田に出ても、草木が刈り払われていて鳥が少ない。アオジ、カシラダカが出て、ベニマシコは声だけ。シロハラ、シメ、ジョウビタキ♀を冷たい北風に耐えながら見た。下見の時に出了アリスイ、クイナは姿を見せてくれなかった。参道は風がなくほっとして、ジョウビタキ♀を見ることができた。岩殿観音でルリビタキ♀が綺麗な姿を全員に見せてくれた。

(千島康幸)

2月24日(日) さいたま市 岩槻文化公園

参加：61名 天気：晴

カワウ カルガモ コガモ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ エナガ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ ウソ シメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) 風が徐々に強くなるなかをスタート。最初の水場でエナガやヒガラの群れに出会う。水を抜いた村国池では後方の地面近くにカワセミを発見。置物のように動かない。しばらくするとモズやシメのいる樹に目玉であるウソが飛来。オス1羽は胸から腹にかけての淡い赤が綺麗だ。メスも6羽。少し距離があったが観察時間は十分あって、参加者はその姿を堪能できたと思う。後半のテストコースは一段と風が強くなり、歩くのにも難儀したため、早めに切り上げた。(長野誠治)

3月3日(日) 寄居町 玉淀河原

参加：44名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ イカルチドリ イソシギ キジバト アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ

スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) (番外：ガビチョウ) 気温は低いが、紅白の梅も開花し、日差しに春が近いことを感じた。河原にはコクチョウの家族が20数羽いた。カタクリやエドヒガンザクラなどの自然、鉢形城の特徴と略歴などのミニ解説を織り交ぜながら鳥を探した。

(小池一男)

3月3日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：44名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ハイタカ チョウゲンボウ キジ オオバン キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 春の兆しを探そうと出発した。冷たい北風のせいか期待のウグイスのさえずり練習は聞けなかったが、道端のホトケノザ、ヒメオドリコソウやオオイヌノフグリの可憐な花が迎えてくれた。草地にはアオジ、カシラダカ、オオジュリン等のホオジロ類、シメ、カワラヒワなどの小鳥達が姿を見せてくれた。最近少なくなったカワセミに加えてオオタカ等の猛禽類が多く出演してくれて良かった。(玉井正晴)

3月9日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加：35名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ オオタカ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ マヒワ シメ スズメ ムクドリ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外：ドバト) 第4回見沼たんぼクリーン大作戦に参加。探鳥しながらゴミ拾い。可燃物20袋、不燃物5袋を拾い集めた。スタート時、公園のアキニレにマヒワ(60+)の群れ。ポカポカのたんぼ上空ではヒバリが囀り。オオタカつがい飛来、鳴き交わし。当探鳥会初記録のミヤマガラスも見られて、大満足の半日だった。

(浅見 徹)



●マダニ・ヤマビル・スズメバチ

マダニ媒介で感染する重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウイルスに感染して死亡、国内12人目との報道がありました。

マダニは SFTS だけではなく、その他の感染症も媒介します。帽子長袖長ズボン。防虫スプレー使用。草原に直接座らない。草むらに入らない。衣類などを草の上などに直接置かない。帰宅後入浴して全身点検。万一マダニがついていたら、早めに皮膚科を受診してください。

埼玉県内でヤマビルによる被害は確認されていないとされていますが、6月22日(土)～23日(日)隣県を訪れた当会リーダーたちは、身を以て体験しました。山道で何人かにヤマビルが付き、宿舎に戻ってから出血に気付いた人もいました。毒性はなく、大事には至りませんでした。勉強になりました。

服装はマダニ対策と同様。靴とズボンの隙間、ズボンと上着の隙間、首などにより一層注意。獣類が息息する山道などを歩いた時は足回りから全身をよく払う。同行者が互いに観察し合うなど、ご注意を。

スズメバチも危険な季節に入ります。香水や甘い匂い、黒い服装を避けてください。甘い飲み物の場合は特に、蓋をあけたまま放置しない。飲み残り・飲み終わりのボトル・缶はザックの中に入れる。スズメバチが寄って来た時は、手で払ったりせず、姿勢を低くして静かに自分が来た方向に戻る。刺されてしまったら、毒を絞り出して水で洗い流し、急いで病院へ。毒を口で吸い出そうとすることは厳禁です。

●会員の普及活動

6月8日(土)さいたま市立浦和博物館主催の親子探鳥会が開催され、楠見邦博、新部泰治、小菅靖、畠山孝が親子17名の参加者を指導。「鳥たちから楽しい思い出、元気をもらおう」のテーマで探鳥後、館内で「安西さんのバードウォッチング教室」のDVDを観賞した。

●会員数は

7月1日現在1,882人。

活動と予定

●6月の活動

- 6月8日(土)『しらこぼと』7月号校正 (海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。
- 6月16日(日)役員会(司会：浅見徹、各部の報告・9～12月の行事予定・24年度決算最終確認・その他)。
- 6月17日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』7月号を郵便局から発送(倉林宗太郎)。

●8月の予定

- 8月3日(土) 編集部・普及部・研究部会。
- 8月10日(土) 9月号校正(午後4時から)。
- 8月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
- 8月18日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

さいたま市に住処を変えてから、見沼田んぼ付近の最新の2万5千分の1地形図(岩槻、浦和)を手に入れた。地図を詳しく見ていると、社寺の数が思いのほか多いことが分かった。これらを探訪するのを鳥見と共に楽しむことにして、手近な所から回り始めたが、地域の歴史も分かって興味深い。(森本)

しらこぼと 2013年8月号(第352号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル  
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社